

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第6週 (2/6-2/12) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		6週	5週	4週	3週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	2/6-2/12	1/30-2/5	1/23-1/29	1/16-1/22	1/30-2/5
			6週	5週	4週	3週	5週
小児科	RSウイルス感染症	○	6 0.33	4 0.22	3 0.17	1 0.06	15 0.11
	咽頭結膜熱	○	4 0.22	2 0.11	0 0.00	1 0.06	21 0.16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		42 2.33	41 2.28	42 2.33	39 2.17	465 3.44
	感染性胃腸炎		92 5.11	88 4.89	97 5.39	113 6.28	637 4.72
	水痘		4 0.22	5 0.28	4 0.22	7 0.39	43 0.32
	手足口病		0 0.00	2 0.11	1 0.06	0 0.00	19 0.14
	伝染性紅斑		2 0.11	4 0.22	0 0.00	1 0.06	13 0.10
	突発性発しん		10 0.56	9 0.50	8 0.44	6 0.33	46 0.34
	百日咳		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	3 0.02
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	流行性耳下腺炎		4 0.22	4 0.22	1 0.06	6 0.33	25 0.19
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★↓	690 24.64	1,052 37.57	1,213 43.32	878 31.36	9,734 45.27
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.06
	流行性角結膜炎		0 0.00	0 0.00	1 0.20	1 0.20	18 0.51
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	0 0.00	0 0.00	2 2.00	3 0.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(14件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	病原体等の検出	結核	女性	70歳代	病原体等の検出等
結核	男性	40歳代	病原体等の検出等	E型肝炎	女性	50歳代	血清IgA抗体の検出
結核	男性	50歳代	画像診断	レジオネラ症	男性	70歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等	梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出
結核	女性	10歳代	臨床診断	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	50歳代	IGRA検査	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出

・第6週は、結核8件(29)、E型肝炎1件(3)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(5)、レジオネラ症1件(1)、梅毒3件(6)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第6週のコメント

＜RSウイルス感染症＞前週より増加し0.33となった。過去10年の同時期と比べると多め。

＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.22となった。過去10年の同時期と比べると多め。

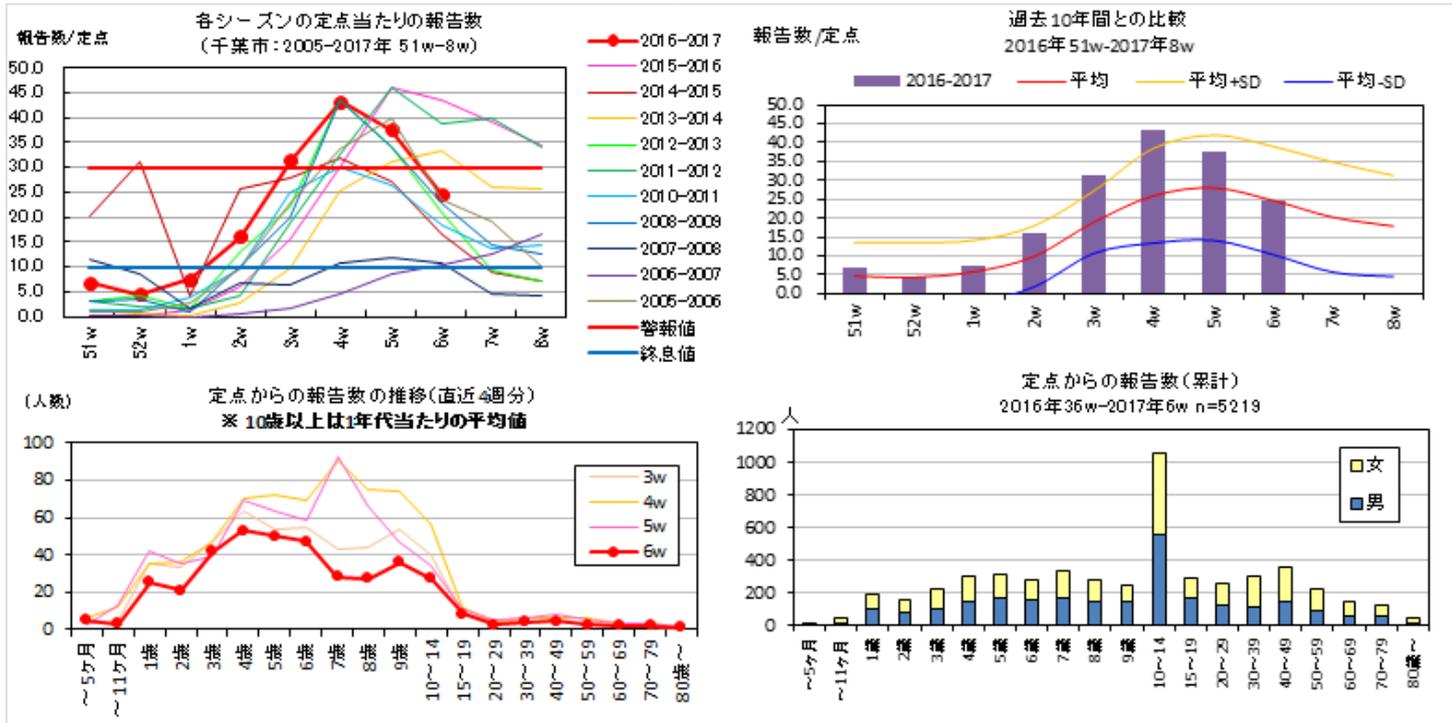
＜インフルエンザ＞前週より減少し24.64となり、流行発生警報開始基準値を下回った。流行発生警報終息基準値は上回っている。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。

■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

全国レベルの2017年第5週は、流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると2012年に次いで多くなっています。都道府県別では、福岡県、宮崎県、愛知県の前順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2017年第6週は、前週より減少し24.64となり、流行発生警報開始基準値を下回りました。流行発生警報終息基準値は上回っています。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。区別の発生状況は、中央区(30.6/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代あたりでは3歳で最も多く発生報告がありました。この他、稲毛区(29.5/定点)、緑区(28.6/定点)、若葉区(25.0/定点)、美浜区(19.8/定点)で流行発生警報終息基準値を上回っており、花見川区(14.3/定点)で流行発生注意報基準値を上回ったままとなっています。今シーズンである2016年第36週から2017年第6週までの累積報告数(n=5219)によると、性別では男性が49.8%(2601名)、女性が50.2%(2618名)で、一年代当たりの年齢階級別では7歳(6.4%:335名)、5歳(6.0%:313名)、4歳(5.9%:307名)の前順に多くなっており、20歳未満は全体の71.7%、10歳未満は全体の46.0%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。



＜梅毒＞

全国レベルの2017年第5週は、累積発生届出件数が362件と、過去9年の同時期と比べ最多であった2016年の308件を上回り最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県の前順に多くなっています。千葉県の累積届出数は8件で全国で8番目に多くなっています。千葉市の第6週は3件の発生届があり、2017年の累積届出数は6件となり、過去10年の月別での同時期と比べると既に最多となっています。男女比は、男性33.3%(2名)、女性66.7%(4名)で、年齢階級別では20歳代が最も多く50%を占めています。病型は早期顕症梅毒Ⅰ型が33.3%(2名)、早期顕症梅毒Ⅱ型が50.0%(3名)、無症状が16.7%(1名)で、感染原因は全員が異性間との性的接触で、内訳は性交が83.3%(5名)、性交及び経口が16.7%(1名)となっています。

